「ひかりっ子」だより　（宇土小学校だより）

令和２年７月　校長　樅木浩孝

○水泳の授業が始まりました。

７月になり，宇土小学校でも水泳の授業が全学年で本格的に始まりました。それぞれの学年で到達したい目標に向かって，しばらく子どもたちの挑戦が続きます。

ただ，新型コロナウイルス感染予防の観点から，小さいプールを使う低学年の水泳授業は，本年度は１クラスずつ実施するなど，いくつか例年と異なるところがあります。また，プール水の遊離残留塩素濃度を必ず基準の濃度となるよう，朝と午後の２回測定し，適正濃度を保つようにしています。そのほか，スポーツ庁及び文部科学省からの通知内容を実施し，新型コロナウイルス感染予防に留意しながら実施していきます。

ところで，水泳の授業に向けて，６月１８日（木）と１９日（金）の２日間かけて，５年生と６年生がプール，更衣室，そのほかプール周りの掃除をしてくれました。とても大変な作業だったのですが，協力しながら楽しそうに作業を行う５年生や６年生を見て，とても頼もしく思ったところです。１年生から４年生の皆さんには，プールが使えるようになった陰には，このように多くの人たちの汗が流されて実現していることに対して，感謝の気持ちをもってもらいたいと思いました。おうちでも，ぜひこのことをお子さんに話していただけないでしょうか。

プール掃除に取り組む６年生の様子

○いい出会い、奉仕の心・・・

林 覚乗さんが北海道に行ったときのことです。講演依頼された会社の方が北海道新聞の切り抜きをくださったそうです。ある中年の男性の投書なんですが、こんな内容だったそうです。

終電車の発車間際に飛び乗ったとき、乗車券は車内で買ってくださいというものですから、車掌さんが回ってきたときに財布を出そうとすると財布がなかった。小銭入れもない。どこかで落としたのだろうか。途方にくれたけれども、そのことを正直に車掌さんに言いました。

「すみません。明日、必ず営業所まで行きますから、今日は乗せてください」

ところが、この車掌さん、よほど虫の居所が悪かったのかどうか、許してくれない。次の駅で降りろ、と言うのです。次の駅で降りても家に帰る手段はない。ホームで寝るにしては、北海道の夜は寒すぎる。

どうしようもなくなって困っていたら、横に座っていた同じ年格好の中年の男性が回数券をくれたんです。お礼をしたいからと言って、その男性に名前や住所をたずねたけど、ニコニコ手を振って教えてくれない。最後には借りたことを忘れて、なぜ教えてくれないのかと文句を言ったら、次のような話をしてくれたんです。

「実は私もあなたと同じ目にあって、そばにいた女子高校生にお金を出してもらったんです。その子の名前を何とか聞き出そうとしたけど教えてくれない。『おじさん、それは私のお小遣いだから返してくれなくて結構です。それより、今おじさんがお礼だといって私に返したら、私とおじさんだけの親切のやりとりになってしまいます。もし、私に返す気持ちがあったら、同じように困った人を見かけたらその人を助けてあげてください。そして、またその人にも困った人を助けるように教えてあげてください。そしたら、私の一つの親切がずっと輪になって北海道中に広がります。そうするのが、私は一番うれしいんです。そうするようにって私、父や母にいつも言われてるんです』と私に話してくれました」

この話に中年の男性はものすごく感激されて北海道新聞に投書されたんですね。本当にいい出会い、本当の奉仕というのは、こういうことではないでしょうか。

（〔心ゆたかに生きる〕　林 覚乗　著、西日本新聞社　から）